

# 新型コロナウイルス感染拡大状況に対応した効果的な療育検討と効果

## オンライン療育の実施

法人名NPO法人ころ・コミュニケーションの発達支援  
まいすてっぷ（児童発達支援・放課後等デイサービス）

目的：新型コロナウイルス感染状況に合わせ、通所困難な利用児童に対する効果的なオンライン療育の実施、ICTを活用して、外に出られない子どもとのつながりを継続していく。

### 問題点①

オンライン療育専用のPCがなく、実施することでの他の業務への影響大。

### 問題点②

オンラインでは著作権のかかった教材は使用できない。都度手作りの教材が必要。

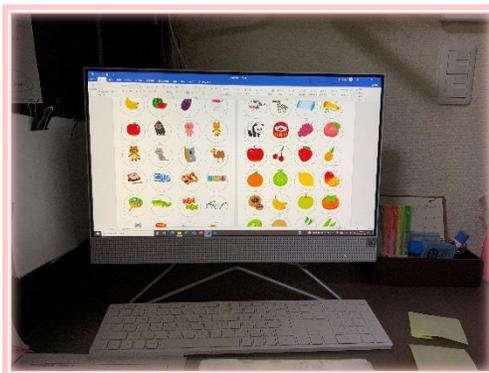
デスクトップPC1台  
ノートPC1台  
ヘッドセット2台

ICT機器  
導入

## 成果

療育専用のPC導入により、オンライン療育実施時の使用と、必要な教材作成が、他のスタッフと打ち合わせなく作業を遂行できるようになった。

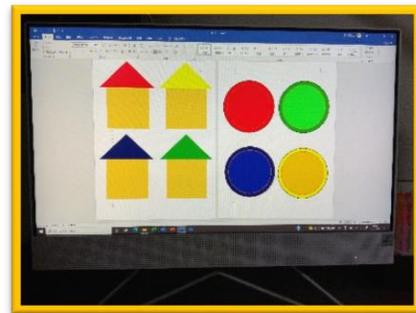
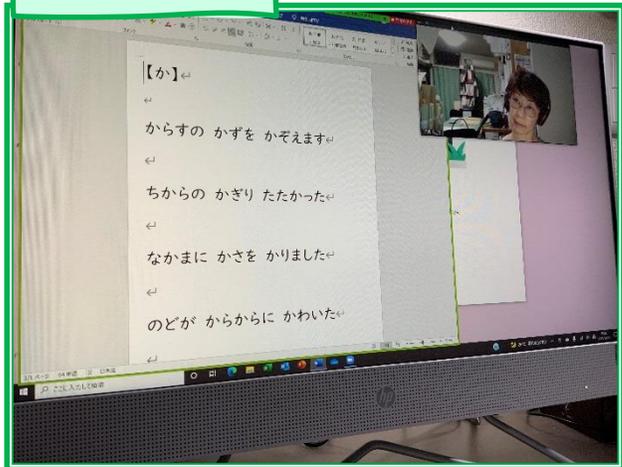
オンライン療育は、子どもの発音に注意を向けることが重要で、ノイズキャンセリングヘッドセットを使用し、より聞き取りやすくなった。これまでは、容量の大きいPCが主に事務業務に充てられていたため、教材作成のように、絵や図が多く容量を必要とする作業であるにも関わらず一台の古いPCを交代で使用していた。すでに動作が遅く、非常に効率が悪かった。現在は新たに2台のPCを使用し、療育の合間に効率よく準備ができています。



## 業務効率化のステップ

- ①療育には日頃から子どもの発達状況に合わせ、必要な教材を多くのカテゴリの中からピックアップして用いている。市販のものも多いが、子どものこだわりやブームなどに合わせる事が一番興味関心を得やすいため、特に言語課題のワードは必然的にオリジナルのものが多くなる。また、オンラインには、既製品が使えないため、都度教材の準備が必要となる。
- ②療育内容のカテゴリ分類を行い、これまで作成したものも含め、類似内容の課題に関しては共有できるように整理する。画像が多いためストレージを購入してクラウドを準備、PCの動作に時間がかからないようにする。
- ③スタッフが、動作の遅いPCに慣れ親しんでしまい、そんなもんだと思い込んでいた。新しいPCでの操作にカルチャーショックを受けながら、若干慣れるのに時間を要している。AdobeDCで画像処理方法も新たに導入、これからより効果的な作業ができる予想。
- ④Zoomでのオンライン療育では、画面共有にて課題の提示を可能にできるよう準備する。

Zoomで画面共有



カテゴリ化の例  
(言えるようになった音を中心にした文章課題)



## 職員の声など

### 【良かった点】

療育内容や他のスタッフとかち合うことなく、これまでより業務に専念できるようになった。時間はかかっているが、少しずつ新しいPCの操作や、効率の良い教材準備ができてきた。オンライン療育の内容に幅が出てきた。

### 【悪かった点】

PCに精通したスタッフが多いとは言えず、Zoomでの効率的な操作や、画像処理や課題提示に戸惑い、時折先に進めなくなっている。

### 【今後の課題・その他】

PCに慣れ親しみ効率的に使用するために、一人一人のスタッフの技術の向上が必要。さらなる業務時間の短縮やサービスの向上に努めたい。